

令和4年度 第1回学校評議員会 議事録

日 時：令和4年5月19日（木）午前11時～正午

参加者：【評議員】水谷様（宮城教育大学大学院）、岩田様（JA全農）、
高橋様（萩の郷福祉工場）、菊地様（青葉山町内会）

【本 校】檜村、村松、藤原、菅野、会津、中野、藤田

場 所：支援学校仙台みらい高等学園 寄宿舍食堂

1 校長挨拶

昨年度の課題解決に向けての取り組みについて発表するとともに指導、助言のご依頼

2 評議員紹介

水谷様：ご挨拶

岩田様：ご挨拶

高橋様：ご挨拶

菊地様：ご挨拶

3 授業見学

各コース授業見学と授業内容、実習室施設紹介

サービスコース（清掃作業）、福祉コース（車いす）、芸美コース（ギフトリボン掛け）、
食農（洋菓子）

4 2022年度学校運営について

村松副校長より

資料 学校運営計画5ページ重点目標の確認

- (1)生徒の特性を理解する
- (2)外部実習を通じ就労先を確保する
- (3)成長する機会を作り挑む

今年度は組織としての基盤を固め、より高みのある授業をしていきたい。

アドバイスなどを是非お願い致します。

各部より

【地域支援部】

運営計画5ページの重点目標についての取り組み

- (1)アセスメントの有効活用と効果的な教員研修の実施。
- (2)心理師による定期コンサルテーションの実施。

(3)芸美、食農など三幸学園のネットワークを生かした企業とのパイプ作り。

(1)(2)は進路と関わりがないように見えるが重要である。

企業と生徒のマッチングをする上で非常に重要な取り組みになるため。

特性の理解は必要である。

本校強みのアセスメント、心理カウンセラーやスクールカウンセラーを活用していく。

(3)について企業開拓に苦戦しており前例のない美容室、美容サロン、カフェ、レストラン等実習先の企業開拓する上で三幸グループを通して企業とのパイプを作っていく。

最後に今年度の前期実習では 33 人中 23 人が現場実習に出向く。

後期では全員が現場実習に行けるよう教務と連携。

主な実習先においてはイオン仙台、ヤマト運輸、同和興業、松島蒲鉾本店など生徒保護者のニーズと目標に合わせた実習先を開拓しています。

【寄宿舎生活】

運営計画 5 ページの重点目標についての取り組み

(1)基本的な生活習慣確立

アセスメントによる個々に応じた支援。

時間通り行動できる生徒 100%を目指す。

生徒に応じて写真、好きなキャラクターを使用したチェックリスト等を前年度に続き作成。家庭生活スキルだけではなく日課をこなすことで順序どおり行う職業能力開発も担いたい。

(2)余暇活動の充実

運動促進、工作・読書日、映画鑑賞日を設け、自ら進んで生活を楽しめるように過ごす。

今年度はデジタル機器の使用を制限し、余暇活動を行っている。

今年度 1 か月半経過したが、サービスの授業を経て余暇で清掃をする生徒、運動グッズを許可している範囲で持参してくる生徒、教科書を毎日 30 分読む生徒がいる。また今年度は外部との交流も積極的に行いたい。昨年度はセコム様の安全教室、学生ボランティアさんのクイズを行った。増やしていきたい。

最後に今年度は 1 年生 7 人、2 年生 7 人と社会性を身に付ける場としての必要性を感じてきた。

5 質疑

特になし

6 指導ご助言

水谷様：質疑あり

①余暇活動は年計画、月計画をしているのか？何時間ほどあるのか？

→月で計画し、毎週月曜日は運動日など曜日固定をしている。

19時～20時または21時まで。

②工作は何をしているのか？

→季節による装飾を折り紙で製作する。

③イベント時の指導は誰がしているのか？

→指導員がしている。

余暇活動においては目的（見立て）を持つことが大切であり、

つながりを持たせることが大切。

岩田様：企業開拓に苦勞されているとのことなので

JAとしても今後もでき得る限り協力させていただきたい。

高橋様：部活動について、スポーツ大会への参加に力を入れてはいかがでしょうか。

目標をもつことや苦しい想いをすることが大切になってくる。

ボランティアなどの協力を微力ながらもさせて頂きたい。

菊地様：大学生で「あいうえお」、アルファベットが書けない、九九ができない人が

増えていると聞く。仙台みらいの生徒はそこには到達していないが様々な経験をして考える人間になってほしい。

授業で理解できていない聞き方をしているので丁寧に説明をする。

アナログ、デジタルと世代が違うので押し付けにならないようにしていく。

7 副校長挨拶

藤原副校長より

生徒入学状況説明あり。

昨年度本科18人、専攻科2人から本年度本科7人、専攻科6人と2年目で入学者数が減少してしまった。公立校も定員割れ、特別支援学級生徒数が減少している。また学費面でのネックがあるので次年度募集にて減免措置をする施策を取っていく。

生徒募集においては学校の教育力が問われるため、卒業生が活躍するのか試される。よって内部を固める=教育力を高めることにより社会からの評価につながる。外部の方々のご意見を頂きながら社会のニーズに合う生徒を輩出していきたい。

最後に仙台BOS（障害者雇用部署）設置の紹介。今後は仙台みらいの卒業生受入を視野に入れる、サービスなどを行い特例子会社化することも視野に入れている。